

# 地域のつながり！ 減量のたのしさ!! =きしわだ= 推進員だより

「推進員だより」では岸和田市廃棄物減量等推進員の活動や市の施策などを紹介します。

平成27年(2015年)

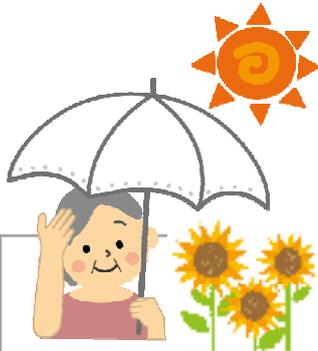
## 第27号

(9月発行)

編集と発行

岸和田市生活環境課

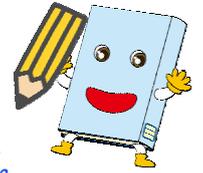
電話072(423)9465



## 「地区別研修会」

今年も市内10ヶ所にて開催いたしました。

真夏の暑い中ご出席いただき、ありがとうございました。



7月17日(金)より7月31日(金)にかけて、市内の各市民センターや公民館など10ヶ所にて「平成27年度 地区別研修会」を開催いたしました。期間前半は雨の日もありましたが、後半は連日の真夏日が続いた大変暑い中、100名余りもの方にご出席いただきました。

研修会では、当日会場にて配布致しました「研修会資料」に基づきまして、岸和田市におけるごみ事情及びごみ排出量の推移について、また、最近よくお問合せいただく分別内容に関する説明等を行い、その中で途中、容器包装リサイクルに関する「ど~なる?こ~なる!リサイクル」と題された資料映像もご覧いただきました。映像では、ごみの行方「ごみはどこへ行くの?どのようにリサイクルされているの?」そして

「どんな物に生まれ変わっているの?」など、出演されていた家族の疑問に答えていくかたちで始まり、回収された容器包装ごみが、あらゆる製品に生まれ変わる過程をご覧いただきました。



まず、初めに紹介されていたのは家の壁。壁の中にリサイクルされたものが使用されているといった説明から始まりました。例として紹介されていたのは、住宅用の断熱材に使用されている「グラスウール」。グラスウールにはリサイクルされたガラスびんが使われているようで、家庭から分別、そして資源ごみとして回収されたガラスびんはリサイクルを行う工場に運ばれた後、従業員の手作業によって色ごとに選別され、その後、機械により細かく砕かれ「カレット」と呼ばれる原料になります。



次に、別の工場に運ばれた「カレット」が高温で溶かされ、“ふわふわの綿”のような住宅用断熱材「グラスウール」に生まれ変わるととても不思議な過程をご覧いただきました。このガラスびんからリサイクルされた「グラスウール」は元々はガラスだったため、耐熱性や耐火性、また施工性にも優れた製品となっており、この工場では、製造されるグラスウール原料の約80%以上に、リサイクルされたガラスびんが使われているそうです。

しかし、資源ごみとして回収されたガラスびん全体の、実に70%以上は再びガラスびんにリサイクルされており、ご覧いただいた建築材料などにリサイクルされている物は残りの内のほんの数%であり、その他の約20%は、道路工事で砂の代わりとして使用されたり、点字ブロックに再生されたりなどの土木材料として幅広く使われているそうです。他にも家の庭などに敷く、踏むと“ジャリジャリ”音が鳴る「防犯用の砂利」や、きれいな色とりどりの「ビー玉」などにも再生されているようで、家にも道路にもリサイクルされている物がたくさんあると紹介されていました。

次に、車の座席や天井などの内装材に使用されているのは、「ペットボトル」から作られた材料であるとの説明から始まりました。集められた「ペットボトル」はガラスびんと同じように細かく砕かれリサイクルの原料に再生されます。その砕かれた原料は「フレーク」や「ペレット」と呼ばれていますが、そのリサイクル原料が、糸状の繊維に加工されていく様子を見たあと、「ペットボトルが繊維になって、それから車の内装材になっているなんて想像できなかった!!」と、出演者の方が感想を述べていました。



車内の「天井」や「座席シート」なんかに、リサイクルされたペットボトル原料が使われている物があるよ。

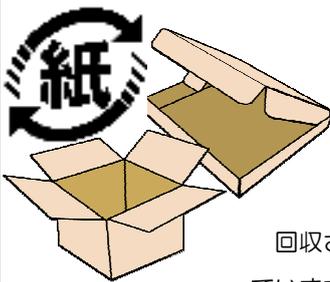


ところで・・・「繊維に加工出来ると言う事は・・・他にも色々な物に使える・・・!？」と言う訳で、あらゆるペットボトルから再商品化される物の内、約50%はブレザーやスカート、他にもシャツやネクタイなど繊維商品に。そして約40%は、「卵パック」や商品を覆っている外袋やクリアファイルなど「シート」と呼ばれる物に再生されていると解説がありました。他にも、あまり知られていませんが「漆器」なんかに加工されているそうです。



次は、「紙製容器包装」のリサイクル過程についてでしたが、映像ではまず、段ボール製造工場の様子が紹介され、「紙製容器包装が段ボールにリサイクルされるまで」と題された内容をご観いただきました。

まずは、お菓子などの「紙製容器包装」の空き箱を「分別」、そして資源ごみとして「収集」、その後リサイクル工場で「製品化」される様子が紹介されていました。回収された「紙製容器包装」はリサイクル工場によって選別された後、溶かす・異物を取り除くなど他の資源ごみと同じ工程を行い、その後、段ボールの原紙となる紙が製造されていきます。映像では、高さが数メートルはある大きな筒状の機械に巻き取られたその原紙から、段ボールが出来上がるまでの様子が映し出されていました。また「紙で出来ているのにどうして段ボールって丈夫なの・・・？」と言った子供の疑問に対し、中芯と呼ばれる波状の紙を、上下の紙によって“サンドウィッチ状”に挟んでいることにより強度が保たれている、といった段ボールの構造についての説明もありました。



その出演されていた子供は、物を運んだり、保管したりなど、生活に欠かせないとても便利で丈夫な段ボールについて「お菓子を食べた箱などがこんな段ボールになっている事にビックリした!!」と言った感想を聞かせてくれました。

回収された「紙製容器包装」の実に約90%が、段ボールなどの新たな製紙原料としてリサイクルされていますが、残りの約8%ほどは、石炭などの代わりに使える「固形燃料」にリサイクルされていたり、他にも、牛の飼育小屋に敷かれている「家畜用敷料」と言われる物にも使用されているそうです。

次は、「プラスチック製容器包装」のリサイクル工場の紹介でしたが、その工場の担当者からの「収集されたプラスチックごみを100%使って“あるモノ”を作っているんですよ・・・」との説明から始まりました。他の資源ごみと同じように「分別」「収集」「選別」された「プラスチック製容器包装」は圧縮され固められた後リサイクル工場へ送られます。そこから冒頭に説明された“あるモノ”の製造過程が紹介されていましたが、その“あるモノ”とは、工場や倉庫などで大量の荷物を運ぶ際にフォークリフトで使用される「パレット」の事でした。



その工場では、年間36,000トンもの「容器包装プラスチック」が使用されているそうで、工程としてまず始めに、梱包され固められたプラスチックを解きほぐした後、より良いリサイクル製品が出来よう、手選別により異物を取り除く作業が行われています。その後、風の力などによる作業によって再び不純物を取り除く作業が行われた後、次の工程に運ばれていきます。そして粒々の細かい状態にされた後、次の工程で熱によって溶かされ、その原料が大型のプレス機にかけられ成形されます。その後、プレス機によって成形されたものから「パレット」が出来上がってくる様子が映し出されていましたが、この工場では100%「容器包装プラスチック」によって年間50万枚のパレットが作られているそうです。

「プラスチック製容器包装」によってリサイクルされる製品は紹介されていたパレットの他、土木建築用資材や園芸・農業用資材、工業部品や日用雑貨品など、様々な製品に生まれ変わっています。

しかし、プラスチックリサイクルには、様々な製品に生まれ変わる「材料リサイクル（マテリアルリサイクル）」の他に、プラスチックを化学的に分解して再利用する「化学リサイクル（ケミカルリサイクル）」と呼ばれる方法により化学製品にも利用されます。例えば、ガス化して生み出されたアンモニアによって「虫刺されの薬」なども作られており、「容器包装プラスチック」は「材料リサイクル」や「化学リサイクル」によって、ムダのないリサイクルが行われております。

ご覧いただいた映像では最後に、「皆様から預かった貴重な資源を、ムダにしないで効率的に使うために、消費者・市町村・事業者が一緒になって努力を続けてきました。その結果ご覧いただいた通り、リサイクル製品の種類や用途は確実に増え続けています」との解説があり「ちょっと地味ですが、“縁の下の力持ち”として世の中を支えているリサイクル製品に、今後少し注目してみてください」と紹介されていました。

1997年、容器包装リサイクル法施行以来皆さまのご協力のもと、どんどんリサイクルの輪が広がっています。しかし、今回ご覧いただいた映像で紹介されていた各リサイクル工場の関係者の皆さまも「異物や不純物が混ざっていると、より良いリサイクル製品が出来ない」と解説されていました。

岸和田市でも回収された資源ごみ類は清掃工場や中間処理場に運ばれ、途中の処理段階では、作業員“ひとりひとりの手選別”によって、“ひとつひとつ不純物を取り除く作業”が行われています。そこで今年度の研修会では、「プラスチック製容器包装」や「資源ごみ」の出し方・分け方のサンプル、また「リサイクルマーク」を拡大した写真をご覧いただきながら、資源ごみについて、より詳しく理解していただけるよう説明を行わせていただきました。

リサイクルするにはまず入り口である「分別」が大切です。「缶・ビン・ペットボトル」そして「プラスチック製容器包装」や「紙製容器包装」「新聞・雑誌・段ボール」など、これ

らは大切な資源です。「リサイクル」と言うのは、ひとつを見ればほんのわずかな効果しかありませんが、大勢が行えば確かな効果が期待でき、少しでもリサイクルをしようという心構えは、とても重要なことでもあります。商品にはいろいろなマークがありますのでマークの意味を理解して、今後も分別に対しますご協力、よろしくお願い申し上げます。



商品に付いていますラベルをよくご覧いただくと、様々な組合せのマーク表示があります。

表示されているリサイクルマークは、私たちが製品を見てリサイクル出来るかどうか判断できるように付けられているマークです。ごみに出す時は、容器の中を軽く水ですすぐなどしていただきますが、「汚れが落ちにくい・・・」「汚れが残ってしまった・・・」などのものは普通ごみで結構です。

商品によっては、はがしにくいラベルもありますが、その場合も無理にはがさなく、付いたままでも結構です。研修会場でも何度かご質問いただきましたが、ビンに付いていますラベルも、はがしにくいものであれば、はがさず、そのままでも結構です。

**!** リサイクルマークは、表示が小さく見にくい場合もありますが  
今後、ちょっと気にして、見ていただければと思います。



【各会場での研修会の様子】

真夏の暑い中ご出席いただき  
ありがとうございました。



## 「岸和田・貝塚 3Rふれあいフェア」には、たくさんの方がご来場いただきました。

7月5日（日）岸和田市貝塚市クリーンセンターにて開催いたしました「岸和田・貝塚3Rふれあいフェア」には、約900名もの方にご来場いただきました。

岸和田市が実施した「ペットボトルを再利用した水ロケット」では、空気と水を使って、発射地点から約70m先に置いた目標に向かって大きく弧を描きながら飛んで行くロケットの光景に、大人から子供まで大はしゃぎしながら楽しんでいただきました。他にも、段ボールで作った的に向かって、牛乳パックで作ったボールを投げて遊ぶ「ターゲットゲーム」など、様々な催しで楽しんでいただきました。



## 「リユース品無償譲渡会」開催しました

8月19日(水)・20日(木)の2日間、環境事務所リユース品展示室にて、無償譲渡会を開催いたしました。

当日は、市民の皆さんからご提供いただいた家具をはじめ、小物類、日用雑貨などのリユース品141点を展示、1人1点応募していただき抽選により無償でお譲りしております。2日間で約330名の方がご来場くださいました。

市では、市民の皆様からの机、タンスなどの小型の家具や雑貨類、その他リユース品の提供を随時受付けております。キズ、汚れもなく、まだまだ使えそうなリユース品をご提供して下さる方がいれば、ご連絡していただくようお願い申し上げます。

但し、目立つ傷や汚れがあったり、修復が必要であったり、また、生活様式や住宅事情の変化により求められる品物も年々変化しておりますが、そのため、最近では使わなくなった家庭も多い“大きめの洋服ダンス”や“和ダンス”“食器棚”など、検品にお伺いした際にお断りする場合がございますのでご了承下さい。（電化製品・自転車は、引取りも展示も行っておりません）

10月25日（日曜日）	旭・太田 （刃物：牛滝）
11月1日（日曜日）	新条・八木北 （新小松里町を除く）
11月8日（日曜日）	山直北・城東
11月15日（日曜日）	大宮・山直南
11月22日（日曜日）	光明・天神山 （刃物：山滝（牛滝除く））
12月6日（日曜日）	中央・浜・城内 （野田町・藤井町含む）
12月13日（日曜日）	朝陽・東光 （野田町・藤井町除く）
12月20日（日曜日）	春木・大芝・城北

※1月以降の日程は次号でお知らせします。



町会（自治会）における、廃食用油及び刃物類の回収を左記の日程で予定しております。当日は刃物類の回収に使用いたします『鍵付きの専用箱』を設置いたしますので、回収時間終了後は、鍵を掛けて頂きますようお願いいたします。

回収日の約一ヶ月前に町会長（自治会長）様へも回覧等を配布いたしますので、住民の皆様への周知、ご指導よろしくお願いいたします。

一部、実施していない町会（自治会）もございます。

## 不法投棄防止に対する取組み（しない・させない・ゆるさない）

本市では、不法投棄多発地域に監視カメラを設置し、24時間体制で監視を行っています。また、岸和田警察署と連携し、職員による不法投棄防止及び防犯夜間パトロールも実施しています。他にも、ごみ置場の巡回パトロールを行い、違反ごみを見かけた場合は確認し、証拠物があれば啓発及び指導を行っています。また悪質者には岸和田警察にもご協力をいただいで対応しております。

排出指導担当：☎ 423-9444



普通ごみの有料指定袋「30リットル」袋の販売が始まっています。

生活環境課

